

# 息長古墳群

## 定納古墳群

横山丘陵南端の尾根上に築かれた古墳群です。道路工事で失われた2古墳を合わせて9基から構成され、1号墳が前方後方墳のほかは、いずれも方墳と考えられます。墳丘の形態から東日本の影響がみられ、東海・北陸と近畿を水陸の交通路で結ぶ要に位置する息長古墳群の特徴をうかがうことができます。古墳からは琵琶湖や主要な交通路、入江内湖遺跡などをみおろすことができます。発掘調査でみつかった埋葬施設は、墓壇内に長大な剖抜式木棺を納めたものです。棺内全面には赤色顔料が施されていました。全体に副葬品は少なく、1号墳から出土した筒型銅器は棺内の被葬者近くに置かれていたもので注目されます。定納古墳群は古墳時代前期後半から中期前半にかけて継続して築かれました。



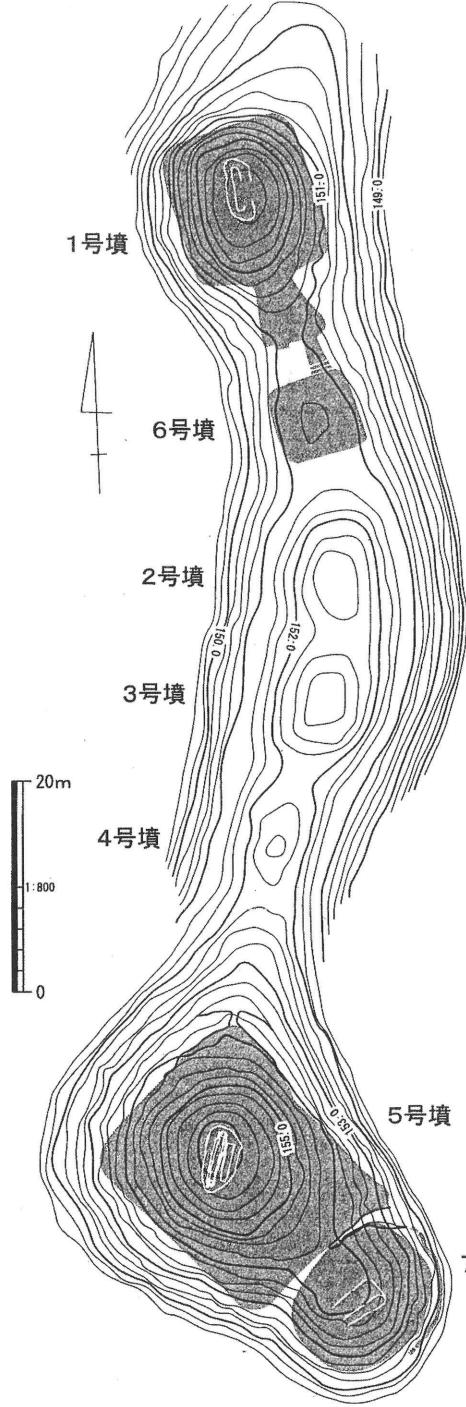
5号墳の埋葬施設は墳頂部に設けられていて、楕円形の墓壙内から2基の木棺の痕跡が見つかりました。西棺は東棺より長く、幅広で深く、全長5.3m、中央幅1m、深さ25cmを測ります。副葬品はありませんでした。東棺は全長3.5m、中央幅60cmと西棺より小さく、副葬品として、刀子が出土しています。両棺のくぼみには赤色顔料が全体に広がっていました。いずれも丸木を直裁して、棺身の中を割り抜いた「削抜式木棺」と考えられます。



埋葬施設  
左：西棺 右：東棺

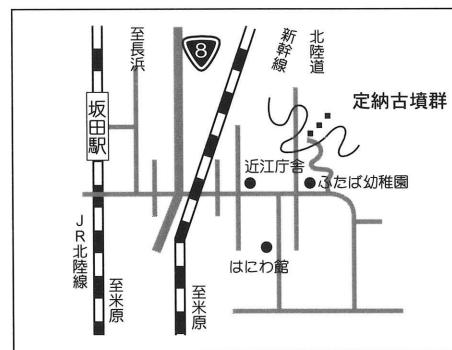


筒型銅器出土状況



筒型銅器・青銅製舌

筒型銅器は国内で約70点、朝鮮半島南部でもほぼ同数が出土しています。そのため、古墳時代前期から中期にかけての日韓交流を考えるうえで有効な考古資料です。いずれも古墳に納められた副葬品として見つかっています。定納1号墳の筒型銅器は、遺体の頭部附近と想定される位置で見つかり、青銅製舌を伴っていました。その機能や用途については、槍や鉾の石突など複数の説があります。



### 定納古墳群

- 所在地 滋賀県米原市日光寺
- アクセス JR北陸線坂田駅下車。徒歩約20分でふたば幼稚園をすぎて左へ入り、山道を約10分登る。

### 米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106  
平成20年度 埋蔵文化財活用事業